

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 小坂治善

年月日	平日 = 2009年3月12日(木・快晴) 休日 = 2009年3月22日(日・雨強風)
回数	2007期 = 第22回巡礼・19名(現地参加2名) 2008期 = 第10回巡礼・18名(現地参加0名)
巡礼寺・順	八十七番札所 大行寺(だいぎょうじ) * 本尊・阿弥陀如来 * 山号 専修山 * 浄土宗(増上寺・末寺) * 草創・1576(天正四年) * 秘仏・聖観音像が祀られている観音堂があります。 * 僧・三誉が創建する * 1837(天保八年),1880(明治十三年)と二度の火災で古記録等一切を焼失する。 * 1854(安政元年)日露和親条約が結ばれ、翌年二年二月ここで日露交渉が行われた。 * 沼津市戸田926 0558 - 94 ~ 2240
距離	約6Km + 10Km + 6Km = 22Km(休日コース)
タイム	下土狩5:35 - 修善寺郷土資料館6:15 土肥峠(船原峠) - 舟山入口7:20 - 大行寺9:05 ~ 9:45 戸田峠 達磨山レストハウス12:30 ~ 昼食 ~ 13:30 北又14:55(平日の最終は梅園)「めおとの湯」15:30 ~ 17:00 17:30三島(休日隊のタイム)
温泉	伊豆長岡「めおとの湯」500 -
参考資料	「群像」「いず(静岡新聞社刊行)」「伊豆霊場振興会」HP

今にも降り出しそうな薄暗い中出発。走り出してから20分で雨がぱらつく。天気予報通り雨の一日となるのか?心配する一行を乗せてバスは進む。6:1

5 修善寺郷土資料館に到着。下田のSさん、Tさん乗車。雨は降っていない。6 : 30、国道136号線は土肥に向かい出口で右折、道路脇の櫻のつぼみはまだ小さい。6 : 55土肥到着東洋一(?)大きいといわれる花時計のある公園でトイレ休憩。公園の北側に帽子姿の若山牧水の像が南を向いている。

バスは戸田に向かって海岸線を走る。海は非常に穏やかだ「春の海 ひねもすのたり・・・・」の句を思い出す。舟山口着。うぐいすの笹泣きの中、準備体操もそこそこに7 : 20スタート。雨はまだ降っていない。大行寺まで、なんとかもって欲しいと祈りつつ歩を進める。7 : 40舗装道路から、戸田舟山の西伊豆歩道に入る。キビシイ山道を行くと文化4年卯年と刻まれた石仏に出会う。



西伊豆歩道と峠道(平日)

8 : 00ここからは下りとなる。足元不安定な下りを10分。右手小高いところに苔に覆われた緑色の石仏が2体あり。見ると元禄と刻まれているのに驚く。そんな昔からこの道が使われていたとは・・・・。さらにキビシイ下りは続く。左手にきちんと組み上げられた石垣に出会う。朽ちたかわら屋根の小屋もある。後で地元の人に聞くと、戦争中の食料不足を補う為開墾した後と判明。

8 : 30 視界が開け戸田の町が一望できるミカン園の上に出る。Sさんが木に登りレモンと蜜柑をゲット。女性陣大喜び! 9 : 05 戸田大川に面した大行寺着。旧名主の家を移築した、木造平屋建ての庫裏兼本堂は風情があり。何となく落ち着く。小さな木魚が四つあり、使用してもよいとの事にて、お借りして木魚の合奏(?)により般若心経を唱えた。

このあと普段着の住職のお話を伺う。開口一番、今日は寝込みを襲われた気分だという。聞けば連絡を受けたが対応が悪く、朝食を取る寸前だったとのこと。そして、歩き巡礼とは近頃では聞かず、とても素晴らしいことですねと、褒められた！

本堂右手欄間部分に、毛筆で書かれた教育勅語の額がある。末尾にあの御名御璽（ギョメイギョジ！）。この額を指しつつ住職曰く、昨今は戦後教育のせい（？）自由をはき違えている者が多くて世が乱れている。自由の前提として約束（義務）がありこれを忘れている。特に最近のTV番組の内容はひどいものだとバツサリ。

教育勅語は、人間教育の基本をうたっており特に家庭教育が大切であることを言っているが核家族化によりそれが失われていると・・・

教育には大きく3つあると言う。1つは、家庭教育。2つは、社会教育。3つめは知識教育。その中でも一番大切なのは、家庭教育だという。

住職は清水町の出身で5歳の時に母親を亡くし祖父母に育てられ、家庭教育を受けた。特に朝食前に合掌し「生きていくために、如来様の・・・・」を唱えさせられたことは忘れられないという。



峠から戸田に向かう（平日）



大行寺

話は止まらない、幕末の地元戸田生まれの上田寅吉の話となる。彼は文政6年戸田大中島で生まれた。下田港で地震で被害を受け戸田で修理する為移送中

駿河湾で沈没したロシア軍艦ディアナ号の代艦ヘダ号建造のため、31歳（寺の小冊子では22歳とあるが誤り）で船大工の副頭取に選ばれ約200人の仲間達と洋式の造船技術を習得しながら舟を完成させ、ロシアの乗組員達は母国に無事帰還大いに感謝される。その後も戸田 ロシアの民間交流は今も続いている。

その後、幕府の命で6隻を造船（君沢型と呼ばれる）したが、幕末の対外情勢キビシイ中その才能を認められ、長崎の海軍伝習所に榎本武揚と共にオランダ留学（4年）新政府軍との戦争（函館五稜郭での戦）敗れて服役を経て、明治政府の横須賀軍艦造船所（後の海軍工廠）の初代工長となり多数の艦船の建造に携わる（戸田造船資料博物館の庭に寅吉の功績をたたえる記念碑がある）と住職の話は終わらないが、ここでストップ！

記念写真の後、雨と風の中9：45出発（とうとう降り出したアー）戸田大川沿いの道を戸田峠に向かって進む。川沿いには櫻の若木が植えられており10年後が楽しみだ！道は急な登りとなり10：20蜜柑販売所の所で2人乗車。



大行寺・藤尾啓心住職



戸田峠の上り（平日）

10：50小休憩後強い雨、風の中での厳しい九十九折れの登りは続く。途中、戸田港を見下ろす所にごぜを祀った石仏があった。ようやく戸田峠に到着あと10分との声に元気が出る加えて下りだ。飛ぶように歩いて達磨山レストセンター広場に到着12：30。バスの中での昼食となる。狭いながらも楽し

く、にぎやかな会話の中での昼食が終わり少し仮眠する

13:30分スタート。雨は小降りだが強風の中、下り坂とはいえメンバーの足は軽やかで速い。まるでクロスカントリーのように駆け下りる。14:35達磨山雨量観測所を右手に見て通過。メンバーの足は変わらず速い。さらに進み、桂谷八十八ヶ所番外の大日如来の石碑がある前を通過してまもなくシイタケ農家の作業場の前にくる。籠に入れられた沢山の生シイタケがある。早速購入交渉をするが、責任者不在の為断念。大きくて美味しそうなシイタケだったのに・・・。



戸田峠（平日）

達磨山レストハウスからの展望（平日）



2:55北又地区の無人野菜販売所、桂谷八十八ヶ所七十二番目大日如来の石碑の前で霊場めぐりの終盤にふさわしく心に残る(?)本日の歩きは終了。バスに乗車一路「めおとの湯」へ!途中Sさん、Tさん下車。冷え切った身体を癒し、反省会(?)の後17:00発 思ったよりスムーズに走り17:30三島着。

天気予報と異なり恵まれた(?)天候の中 霊場めぐりの1日に深謝、合掌。

参考

- ・ 宇久須の黄金崎の見晴台(トイレ休憩したところ)にある銅像=鈴木伊三郎はロシア軍艦ディアナ号の代船ヘダ号の建造が戸田港で行われる際、ロシア乗組員から西洋式造船技術を学び、後、才能を認められ幕府の軍艦旭日丸(あさひまる)

の艦長となった。明治2年榎本武揚に従って函館五稜郭の戦いに敗れ、服役後、故郷宇久須に戻り運送業を営んだ。



北又集落のシイタケ業者(休日)

雨の達磨山キャンプ場歩道(休日)



- ・ 三島駅南にある楽寿園の寄贈者、緒明家は戸田出身です。
緒明家の先祖、嘉吉は前出の上田寅吉らと共に幕府の造船技士に抜擢された人である。その子菊三郎は当時10歳であったが、父嘉吉を手伝って西洋式造艦を体験。戊辰戦争では榎本武揚に従い修理工として旗艦開陽丸に乗り込むも、父嘉吉病氣悪化の為函館には行かず、緒明家を継ぎ東京京橋で造船所の経営。海運業、志摩半島鳥羽湾の埋立て工事、銅鉱石の採掘と精錬所の経営、伊豆や関東各地での植林や開墾など、多角的な事業を展開。娘婿の圭造は大正の末、朝鮮の李王家が三島に所持していた別邸と庭園を買い取り、一部が三島市に移管され楽寿園となった。

・教育勅語

明治23年10月30日発布 明治天皇が国民道德の根源、国民教育の理念を明示する為に下した勅語。水戸学者、元田永孚(もとだ ながざね)が作成。

ちんおもうに わがこうそこうそう くにははじむることこうえんに
朕惟フニ 我カ皇祖皇宗 国ヲ肇ムルコト宏遠ニ

とくをたつること しんこうなり

徳ヲ樹ツルコト 深厚ナリ。

私は、私達の祖先が、遠大な理想のもとに、道義国家の実現をめざして、日本の国をおはじめになったものと信じます。

わがしんみん よく ちゅうによく こうにおくちょう ころを いつにして

我カ臣民 克ク 忠ニ克ク 孝ニ億兆 心ヲ 一ニシテ

よよ そのびを なせるは これ わがこくたいの せいかにして

世世 厥ノ美ヲ 濟セルハ 此レ我カ國體ノ 精華ニシテ

きょういくのえんげん またじつに ここにそんす

教育ノ淵源 亦實ニ 此ニ存ス。

そして、国民は忠孝両全の道を完うして、全国民が心を合わせて努力した結果、今日に至るまで、美事な成果をあげて参りましたことは、もとより日本のすぐれた国柄の賜物といわねばなりません。私は教育の根本もまた、道義立国の達成にあると信じます。

なんじしんみん ふばにこうに けいていに ゆうに ふうふあいわし

爾臣民 父母ニ孝ニ 兄弟ニ 友ニ 夫婦相和シ

ほうゆうあいしんじ きょうけんおのれをじし はくあいしゅうにおよぼし

朋友相信シ 恭儉己ヲ持シ 博愛衆ニ及ホシ

がくをおさめぎょうをならい もってちのうをけいはつし とくきをじょうじゅし

學ヲ修メ業ヲ習ヒ 以テ智能ヲ啓發シ 徳器ヲ成就シ

すすんでこうえきをひろめ せいむをひらき つねにこっけんをおもんじ

進ンデ公益ヲ廣メ 世務ヲ開キ 常ニ國憲ヲ重シ

こくほうにしたがい いったんかんきゅうあれば ぎゆうこうにほうじ もって

國法ニ遵ヒ 一旦緩急アレハ 義勇公ニ奉シ 以テ

てんじょうむきゅうのこううんを ふよくすべし

天壤無窮ノ皇運ヲ 扶翼スヘシ

国民の皆さんは、子は親に孝養をつくし、兄弟、姉妹はたがいに力を合わせて助け合い、夫婦は仲むつまじく解け合い、友人は胸襟を開いて信じあい、そして自分の言動をつつしみ、すべての人々に愛の手をさしのべ、学問を怠らず、職業に専念し、知識を養い、人格をみがき、さらに進んで、社会公共のために貢献し、また法律や、秩序を守ることは勿論のこと、非常事態の発生の場合は、真心をささげて、国の平和と、安全に奉仕しなければなりません。

明治二十三年十月三十日

御名御璽（ぎよめいぎよじ）

大行寺の教育勅語



戸田八十七番・大行寺

(上) 平日

(下) 休日

